

第3回三春町文化財保存活用地域計画策定協議会にかかる質問・意見及び回答

(1) ①アンケート、ワークショップの目的、概要等【資料1】について

【質問】

- ・(アンケートの) 配布部数が全戸となっています。情報の収集と分析に相当数の時間と手間がかかると思いますが、懸念事項はないのでしょうか。

回答) 配布部数が約 5700 部、回答率は 30%程度として、およそ 1700 部回収の見込みとしております。紙のアンケート用紙の配付と同時に、QR コードからオンライン回答フォームでも回答いただくことで、集計の手間の軽減が期待されます。なお、アンケートの分析等はコンサルティング業者に委託する予定です。

- ・中学生への調査も実施するということですが、高校生が対象から外れている理由を教えてください。

回答) 田村高校生は必ずしも三春町内在住ではない場合が多いということで、今回は対象から外れています。ただし、町民でなくとも、将来を担う若者の意見を取り入れると言う意味で、別途協力を依頼したり、意見を伺えるような機会を設けたいと考えています。

- ・アンケートは、町内全戸+中学生配付と言う事ですが、一般の方は文化財に対して興味や関心がないと思うので、どうやって回答率を向上させるかが一番の問題かと思いません。

回答) 各まちづくり協会への説明会の席で、町民アンケートの回答を住民に呼びかけていただけるようお願いしています。また、回答受付期間中、定期的に回答を促す記事を町公式 LINE で配信する予定です。

- ・ワークショップと地区との話し合いが同時開催となった理由は？

回答) ワークショップと地区との話し合いを別々で行ったとしても、参加者が重複したり、内容が重複する可能性が大きいことから、これらを統合し、各地区でのワークショップ(話し合い)開催としました。

- ・アンケート調査対象 町民全戸、所有者向、保存会向とあるが、それぞれ重複しないのか？

回答) 内容はそれぞれのアンケートで異なっているので、聞いていることは重複しないと考えます。所有者の方や保存会の方は、アンケートが増える分お手間を取らせてしまうこととなりますが、これらの方々のご意見を伺うのは文化財の保存活用を考える上で不可欠ですので、ご協力いただきたくお願いすることとします。

- ・中学生には学校を通して配付するのか、各戸に送付するのか？中学生配付分は配布時に先生の説明は有るのか？

回答) 中学生には学校を通して配付・回収いただく予定です。

- ・たたき台となる町民アンケート調査の重要性は分かるが、回答回収率がはたしてどの位になるか (QR コード信望のみで大丈夫か？)

回答) 町民アンケート回収率は 30%程度と見込んでいます(一般的なアンケートの回収率は 1割~3割程度とのこと)。アンケート用紙には QR コードを添えるほか、返信用封筒も同封し、郵便での回答も受け付けます。

- ・ワークショップを開催するのであれば今後の担い手である中学生を中心に現場に於いてゲーム感覚で地域の宝物探しをおこなってはどうか？

回答) 今後、検討したいと思います。場合によっては、中学生の郷土教育の一案として地

域計画に盛り込むことも考えたいと思います。

- ・(ワークショップについて) 各地区1回なので、出席者はまちづくり協会の各委員や部会の委員等、なるべく多くの住民に参加を求めた方がいいと思います。

回答)ワークショップ開催の際、まちづくり協会事務局へ協力をお願いします。また、広報誌やチラシなどで広く参加を呼びかけることとします。

【意見】

- ・アンケート調査後のワークショップ・地区懇談会の統合は評価できる。それぞれ開催しても同じ結果で終わる。
- ・未指定文化財の発掘 今後の対応 活用 保存はワークショップの力量次第。

(1)②アンケート調査票の内容【資料2～4】について

【質問】

- ・ワークショップ(地区懇談会)についてお尋ねいたします。7地区で実施するということが、専門家の参加はあるのでしょうか。アドバイスをもとに協議するのと、そうでないものとは、内容に濃淡が生じるおそれを感じますが、いかがでしょうか。

回答)歴史民俗資料館職員が主になって実施します。ワークショップ実施に当たっては、同種の事業経験の豊富なコンサルティング業者から助言をもらい、より内容が充実したものができるよう、準備を万全にして臨みたいと考えております。

- ・所有者アンケート・保存会アンケートのいずれも最後の質問(資料3のQ11、資料4のQ10)の質問文に「これまで回答してきた文化財に関して(関連して)」とありますが、これだと所有者が所有している文化財、保存会が保存している文化財に関するもののみを聞いていることとなります。質問の趣旨は、対象の文化財にかかわらず広く三春の文化財のことを聞こうとするものだと思いますので、この部分は削除した方がよいのではないでしょうか。例)「このほか、保存・活用していくべき《地域の宝物》が身の回りにあれば・・・」

回答)当該の質問については、所有者または保存会の立場から見た《地域の宝物》を聞く目的でこの文面としましたが、なるべく広く聞くため、「また、直接関係がないものでも、身近に《地域の宝物》があれば、教えてください。」の一文を追加しました。

- ・アンケート内容は良いかと思いますが、項目が多く、もう少し簡略化しても良いのではないかと思います。

回答)提示させていただいた設問案については、計画を作成する上で必要なものであり、簡略化は難しいと考えました。文字が小さく読みづらいことなど、レイアウトの問題も大きいと思われるので、なるべく字を大きくし、回答しやすい体裁としました。

- ・資料2 Q5-1 今までの町の取組を皆さん知っていますか?

回答)知らない方もあるかと思しますので、「町の取組を知らない」という項目を追加しました。

- ・アンケートの紙の大きさは分からないが、全般的に文字が小さくて読みづらい。文字の大きさ等、レイアウトを見直してはどうか。

回答)なるべく字を大きくし、回答しやすい体裁としました。

- ・回答方法の記載内容がよくわかりません。「紙面回答」と「ネット回答」などのようにわかりやすく示したほうが良いと思います。また、締め切りは必着かななどを明記してはどうでしょうか。また、貴重な時間をさいていただくので、回答の最後に、感謝の文言が必要ではないでしょうか。

回答)紙面回答、WEB回答と分けて表記し、回答締切を「2024年10月31日(必着)」と

明記しました。また、すべてのアンケートの末尾に感謝の文言を追加しました。

- ・食文化に関する内容はないのですか？伝統的な（歴史が浅くても地域に根付いているものも含む）食文化などがあつたら項目にあげても良いのではと思います。

回答)町民アンケートQ3-1に、「三春油揚げ、三春そうめん」に代表される、伝統的な食文化が伝わる町」という選択肢を追加しました。

- ・地域の方々が三春町を他の人に紹介・説明する際に、どのようにお話ししているかが、町のイメージや特徴づけ、文化を示しているのではないのでしょうか。そうした声を集めれば、次の町づくりに活かせるのではないのでしょうか。

回答)町民アンケートQ3-2として、「上記の他に、三春町を他の地域の人に紹介するとなら、どのように紹介しますか。三春町の歴史や文化を表す特徴だと思ふことがありましたらご記入ください。」と追加しました。

- ・所有者アンケートと保存会アンケートについては、文化財の保存・維持に協力いただいている方に向けてのものでありますので、アンケート冒頭に行政側からの感謝を文言として入れられるのであれば、追加していただきたいです。

回答)アンケート用紙冒頭にも感謝の文言を追加しました。また、アンケート送付の際は添え状を同封し、日頃の挨拶と感謝をお伝えすることとします。

- ・所有者アンケートと保存会アンケートについて、このようなアンケートの場合、大変なことなどマイナス面ばかり聞くようになることがしばしばあり、負担ばかりかかっているなどアンケート回答の際に感じてしまいます。所有者や保存会に向けては、所有して、管理して、保存に携わって良かったと感じる内容を拾えるような設問を追加して欲しいです。

回答)所有者アンケート・保存会アンケートについて、「文化財の保存・活用に関わってきて良かったこと、嬉しかったことは何ですか。」という設問を追加しました。

- ・所有者アンケートQ4について、この設問の回答者は、Q3の「見学希望があつた場合」の方も入れても良いのではないのでしょうか。また、「面倒だから」「自身が生活している・利用しているため」なども入れても良いと思います。また、「5. 見学者は来ないと思われるため」は「見学者が来ないと思うため」としたほうが良いのではないのでしょうか。

回答)当該の回答対象者を、「Q3-1で「1. 常時」と回答した方以外」としました。また、「見学者が来ないと思うため」「自身が生活・利用しているため」「面倒なため」と選択肢を修正・追加しました。

- ・所有者アンケートQ5・Q6について、現在だけでなく過去の取組も含めて聞くため、「これまでどのような～」というような文言にしてはどうでしょうか。

回答)当該設問について、「これまでどのようなことを行ってきましたか。」「これまで連携・協力してきた機関や施設はありますか。」と修正しました。

- ・所有者アンケートQ6、Q7（保存会も同様）設問分の「連携」を「連携・協力」、「団体」を「機関や施設」とわかりやすく変更してはどうでしょうか。また、行政の項目はもっと前におくべきではないでしょうか。

回答)当該設問文と選択肢について、修正しました。

- ・所有者アンケートQ8について、災害関連の項目を追加してはどうでしょうか。

回答)「4. 防災・防犯対策」としていましたが、防災は重要な項目と思われるので、単独の項目としました。

- ・保存会アンケートについて、いつから保存会があるのか、最盛期にはどのくらいいたのかについてもうかがえると、今後の役に立ちそうな気がします。

回答)Q1-1、1-2として追加しました。

【意見】

- ・事務局が申請する書類作成に関する必要な項目を、このアンケートによって一般、学生、文化財関連当該者に広く周知及び採取する項目を本計画案の土台に必要な質問であればいいのではないかと考えます。
- ・アンケートの内容は細かすぎず丁度いい
- ・アンケート調査により 文化財の関心度 保存活用状況 課題等がある程度把握できると思われる。

(2)「三春町の歴史文化の特徴」について(【資料2】町民アンケート Q3-1)

【質問】

- ・Q3-1. の2.に「三春城跡や地域の館跡に代表される、戦国大名、田村氏と愛姫の町」とありますが、松下氏や秋田氏に心を寄せる方がいます。両氏に関する設問があってもいいと思いますが、いかがでしょう。

回答)お申し越しのとおり、松下氏および秋田氏については三春の歴史を見る上で非常に重要なトピックですが、選択肢3の内容と時代が重なってしまうので、選択肢3に「江戸時代」と追加し、松下氏および秋田氏の時代であることを明確にしました。なお、今後地域計画に盛り込む「三春町の歴史文化の特徴」を検討する際、あらためて参考にさせていただきます。

- ・歴史等が好きな人にとってはピンとくる表現かもしれないが、町民全戸に配布するには内容が分かりにくいのでは？もっとソフトな言い回しが必要かと考えます。

回答)今回は町民全戸配布とアンケート対象が広いため、なるべく正確を期した文言としましたが、今後地域計画に盛り込む「三春町の歴史文化の特徴」を検討する際、人口に膾炙しやすいキャッチフレーズを検討したいと思います。

- ・Q3-1. ですが、例えば、下記案のように Q2で挙げられているような、各項目を想起させる(各項目に該当する)文化財を事例として各項目に付すことで、各項目がイメージしやすくなるのではないかと思います。(一方で色々情報を盛り込むことでアンケートが散漫になるという課題もあると思います)

回答)お申し越しのとおり、事例となる文化財を示すことで、各項目がイメージしやすくなるかと考えられますが、選択肢の文が長くなりすぎて散漫になること、有名な文化財がある選択肢が多く回答されてしまうおそれがあること、指定文化財がない選択肢があること(郷土玩具等)より、今回は記載しないこととしました。

【意見】

- ・原始～現代にわたり、各時代の三春町を代表する特徴が挙げられており、町民をはじめ、町民以外の方でも本質問を通して、町の歴史や文化財に関心をもってもらえるのではないかと思います。また Q3-2の質問項目があることで、アンケート実施者が想定していなかった三春町の歴史や文化を知ることでもでき、良いと思います。

(3)その他、ご意見等ございましたらご記入ください。

【質問】

- ・要田地区は、三春町と田村市が地域的に複雑に入りこんでいるので、寺社の行事等でも、明確に三春町のものと区別するのは、判断が非常に難しいと思われれます。

回答)お申し越しのとおりかと存じます。これに限らず、他の市町村にまたがるような文化

財等であっても、歴史的経緯も踏まえ、一体的に把握することとしたいと思います。

- ・アンケートで出てきた文化財やお宝の確認といえますか、見て歩くことはするのですか？

回答)主なものは調査したいと考えていますが、策定期間中にすべてを調査することは難しいと考えています。文化財や《地域の宝物》の総量や内容をまずは把握した上で、地域計画に、今後計画的に調査する旨具体的なスケジュールを盛り込むこととしたいと思います。

- ・国指定重要文化財について。国指定重要文化財の中山家は、昭和52年に指定を受け、以来約50年、当家では、今日迄修繕、管理しながら居住して参りましたが、指定以来、国、県、町からの補助や援助は全く無く、自由にリフォーム、改造することも許されず、我慢して過ごしてきました、との事です。現在屋根等も腐食が進み、塗装工事等が必要ですがもし？何処か違う場所に移築とか、何らかの方向性を示してほしい、と言う事です。

回答)現在、国・県と協議しながら、移築する方向で進められないか検討中です。今後、所有者の方と地元住民の皆さんと協議しながら具体的な検討を進めたいと考えています。また、その旨地域計画に盛り込みます。

- ・文化庁のHPから文化財保存活用地域計画策定によると策定の予算がその自治体によって違う理由をお聞かせ願いたい。

回答)文化庁のHPに掲載されている予算とは、おそらく「令和6年度地域文化財総合活用推進事業(文化財保存活用地域計画等作成)採択決定一覧」に掲載されているものかと思います。これは、各自治体の地域計画にかかる予算すべてではなく、その一部について国から補助金を受けた、その補助額となっています。地域計画にかかる事業すべてが国の補助の対象となるわけではありませんので、ここに上がっている金額が多かったり少なかったりしても、その自治体が地域計画策定にかけている金額の多寡とは必ずしも関係がありません。

計画策定の予算については、コンサルティング業者への委託の有無や委託する業務の範囲、文化財調査の有無、計画策定専任の人員を確保するかどうか、協議会設置の有無など、各自治体の置かれた状況によって、策定を進める上で必要な業務が異なり、費用も大きく変わります。

また、複数年かけて計画を作成することが一般的ですので、その自治体が作成1年目か3年目かなどもによっても、かかる経費は違ってきます。

【意見】

- ・第2回協議会で話題になった、回答対象者数や質問項目など様々のご意見が反映されたアンケートになっていると思いました。

- ・策定した当該の文化財保存活用地域計画の認定は、少子高齢化の進行による文化財の散逸や衰退を防ぐため、地域社会全体で文化財を継承できるよう、活動主体を確保する取組みを推進し、文化財の保存・活用を目指すものだと思います。

- ・三春の観光資源としての文化財は、旧町・三春城下だけのあるのではなく、それぞれの地域に存在しています。歴史的な史実はもちろん、それらに付随する信仰・歳時、寺社仏閣や石碑、さらには郷土芸能や風習、そして、地域に伝わる伝承、昔話、伝記、民話、あるいは、方言などたくさんの三春独特の文化財(文化)があります。本事業は、それらを今一度、現代の表舞台に現して、ストーリー付けするいい機会だと考えるとともに、町内に存在する有形・無形の文化財の調査、記録を重ねて、先人が残した市民共通の財産として地域の皆さんと共に後世に伝えていかなければならない時期ではないでしょうか・・・広義的な文化財の継承者という意味での時間的な制約の中で、今すぐにでも始めなければという事案もあります。

三春に点在する文化財を“点”として捉えるのではなく、戦国期から近世までの田村領・旧三春藩領、田村庄、小野保など、地域一帯で“面”として捉えれば史跡も神社も伝統芸能も、いずれも地域社会が支えてきたものであり、歴史的な背景をもとに相互に結びついており、これらの文化財を時系列的に様々な時代に於いて連携させてストーリー仕立てにして保存・活用し、田村地方の歴史や文化を改めて再構築することによって、田村エリアをアピールしやすくなると考えます。さらには、歴史の宝庫である小さな城下町「三春」独特・独自の文化財などの保存・活用を通じて、まちづくりや観光振興など、観光協会や商工会、あるいは個々の会社の事業化につながる方法を探りたいと考えます。

昨今、重要文化財、史跡や名勝、天然記念物のほか、重要無形文化財など、多岐にわたる貴重な文化財は、文化財保護法のもとで行政や地域、あるいは個人で守られてきました。しかし、実はこれらの文化財の所有者の中には、維持・管理が厳しくなり、それを負担だと感じるケースもあるということも聞こえてきます。寺社などの建造物の所有者は、その維持や管理に多額の費用がかかります。また、相続の際は税負担も発生する事案もあります。そして、文化財に指定されると税制上の優遇措置や、保存修理の費用の若干の補助を受けることが可能となりますが、同時に現状変更が許可制になるなどの制約も発生します。このバランスは難しく、若干の費用のために制約の方をより負担だと考えて、文化財指定を受けないという選択も少なくありません。また、これらの負担から「町に寄付したい・町で何とかして～」という要望も少なくない聞き及んでいます。しかし、町は一定の補助は出せても、町が所有する文化財が増えると、維持・管理を賄いきれなくなります。

しかし、過度な補助金への依存体質が、地域の魅力の喪失、低迷の一因であることは、多くの従来型文化財保有エリア・観光地に共通しています。

今後の地域の再生には、まずこのような体質からの脱却が不可欠です。そのためには、地域がより主体的に取り組むことがこれまで以上に重要になります。また、「お金をかければいいものができる」時代ではありません。そして、魅力ある町・観光地をつくることも、従来のような行政や一部の観光事業者が関わるだけでは難しく、地域本来の魅力が旅行者に伝えられない時代になってきました。

小さな城下町「三春」は、大型の観光バスで大勢の人がワンサカ来るような場所ではありません。歩いて楽しむまちであり、駐車場に車をとめて、まちの中を歩きまわってはじめてその魅力を肌で感じ、十分に味わうことができる小さな城下町です。

きれいに整備され街並、一方昔懐かしい町並みの面影が残る、単に歴史や文化が感じられるというだけでなく、生活のにおいがする魅力的な小さな城下町。

地元の人々が居住し生活する場であり、近郷近在よりの買物のお客さまが出入りする場であり、さらに近年は 春、桜の時期だけではなく四季を通じて観光のお客様が訪れる魅力的な城下町でもあります。

城下の道は、城下町のなごりで、道路は狭くて複雑であるため、生活に不便な点もありますが、御城坂 北町の坂や桜谷、天狗谷、谷間が多く、道が狭いことがかえってこの街の魅力を高めています。

北国の小さな城下町三春は、城下にこそ魅力があると思います。

城下の隅々を歩く 裏道の路地をぬけ、桜川や裏道の小さな公園にあるベンチでくつろぐ。また、郊外では、稲穂 田園風景や道端の地蔵さんや石碑で心が和む、そして地元の人々とのふれあうなかに本当の魅力を発見します。

このような三春らしさを失わず、小さな観光地として持続させていくためには、過剰な投資をせず、「身の丈に合った地域経営」が必要です。そのためには、官民が役割分担のもとに協働し、知恵と創意工夫で魅力を創り出す体制づくりが望まれます。

三春の歴史文化、歳時、産業などの再確認や連携によって、総合的な三春・田村地域の魅力、地域らしさに結びつけていくことが重要であり、「観光」と「まちづくり」を連携させながら、一体的に取り組んでいく必要があると考えています。